

第5回特別賞 受賞者一覧および選定理由

特別賞名	受賞者および受賞活動計画	選定理由
熊本日日新聞社賞	井上真希氏 「草原環境学習『オオルリシジミとあか牛のくらし』」	オオルリシジミを題材に草原の有する公益的機能について高森町や南阿蘇村の小学生に継続的な授業をおこなうとともに地元ケーブルテレビと協力し希少なチョウの美しさを多くの人々に伝え草原の普及啓発に大いに貢献した。
伊藤園賞	草原再生オペレーター組合 「採草による未利用草原の再生」	阿蘇の自然資源である草原の野草を活用するため、牧野の未利用地を活用し、阿蘇草原の維持再生のほか、環境保全型農業の推進に大いに貢献した。
阿蘇地域世界農業遺産推進協会 会長賞	認定 NPO 法人 阿蘇花野協会 「阿蘇花野再生プロジェクト～生物多様性豊かな阿蘇の草原を未来に引き継ぐ～」	茅の刈り取りや茅束、野草コンパクトの作成に加え、刈干パックの推進に取り組むことで、野草資源の利活用の普及拡大や阿蘇草原における持続的農業に大いに貢献した。
熊本県畜産農業協同組合連合会 会長賞	狩尾牧野組合（阿蘇市） 「熊本型放牧」	熊本型放牧に取り組むことで、牧野の未利用地を有効活用し、阿蘇草原における放牧利用を推進するとともに、畜産振興に大いに貢献した。
環境省九州地方環境事務所 所長賞	日本緑化工学会 「草原再生を目的にした短草型化試験・種子の活用試験」	野草資源の新たな活用方策として、法面緑化への野草利用を推進し草原再生に大いに貢献した。また、その成果は国立公園管理や生物多様性保全上の課題解決にも繋がるものであり、環境施策の推進にも貢献した。
阿蘇草原再生協議会 会長賞	熊本県農業研究センター草地畜産研究所 「阿蘇産牧草・野草を活用した肉用牛発酵 TMR の開発及び給与試験」	繁殖雌牛にとどまらず、肥育牛においても野草を有効活用しながら、十分な増体量と飼料費の軽減を実現できることを実証し、野草資源の畜産的利用拡大を通じて、阿蘇草原保全に寄与する成果を収めた。

受賞者及び授与者の集合写真



熊本日日新聞社賞

井上真希

草原環境学習

「オオルリシジミとあか牛のくらし」

令和2年度活動結果報告（17）


提出日	令和3年7月3日	活動区分 ※事務局で記入	(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：井上 真希		
	担当者名：井上真希		
事業・活動名	草原環境学習「オオルリシジミとあか牛のくらし」★草原キッズプロジェクト		
実施場所	南阿蘇村（白水小学校）、高森町（高森中央小学校・東学園義務教育学校）、草原（前原牧野）		
実施日・期間	令和2年5月21日（木）～令和2年7月7日（火） 計6回		
実施内容	<p>①南阿蘇村立白水小学校 実施日：令和2年6月9日（火）10:35～11:20 参加者：白水小学校3年生13名（担当：緒方先生）</p> <p>②南阿蘇村立両併小学校 実施日：令和2年6月26日（金）10:45～11:30 参加者：両併小学校3、4年生13名、5、6年生13名 計26名（担当：内田先生）</p> <p>③高森町立高森中央小学校 実施日：令和2年6月18日（木）13:50～14:35 参加者：高森中央小学校4年生48名（担当：荒牧先生）</p> <p>④高森町立高森東学園義務教育学校 フィールド学習：令和2年5月21日（木）15:30～17:00 遠隔授業：令和2年5月28日（木）11:00～11:40 遠隔授業：令和2年7月7日（火）12:00～12:15 参加者：東学園義務教育学校4年生 2名+引率2名（担任：神志那先生） （実施状況・参加者の感想等詳細は別紙参照）</p>		
実施体制 (連携・協力)	<input type="checkbox"/> 実施運営：大西佳代（南阿蘇）・花岡利和（高森）・花岡玲子（高森）・井上真希（南阿蘇・高森） <input type="checkbox"/> アドバイザー：岡俊樹・岡くに子 <input type="checkbox"/> 南阿蘇村教育委員会（担当：渡辺裕一 社会教育係主事） <input type="checkbox"/> 高森町教育委員会（担当：田中忠 教育指導員） <input type="checkbox"/> 草原環境学習小委員会 <input type="checkbox"/> 下蹟牧野組合（南阿蘇村） <input type="checkbox"/> 前原牧野組合（高森町）、鍋平キャンプ場（高森町）		
実施の様子	別紙参照		
成果	<p>・当初は5月中旬に白水小・中松小、そして新たに両併小を加えた3校の3年生が合同でオオルリシジミ草原学習に参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大により合同開催が中止となった。そのような中で、両併小で理科の授業を担当している講師の大西先生が直接両併小に掛け合い、3年生だけでなく今までオオルリシジミ草原学習を経験したことのない4～6年生も学習に参加することになった。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> ・今年みんなで観察する予定だったオオルリシジミが、今年も元気に飛び回っていた様子を見せたいという想いで、今年はシーズン中何回か現地で撮影を試みた。地元のケーブルテレビ高森ポイントチャンネルも協力してくれたおかげで、求愛行動や産卵のようすなどを動画で撮影することができ、授業で活かすことができたうえ、町民にも広く取り組みを紹介することができた。 ・白水小では廊下に前年度の学習をまとめたポスターが掲示しており、普段から目を通していた児童が多かったようで指導者の名前を憶えている児童や、兄弟から話を聞き予習していた児童もいた。 ・南阿蘇村教育委員会と来年度に向けての話し合いを実施した。来年度からは新白水小学校の行事としてオオルリシジミ草原学習を組み込み、教育委員会が協力してくれることになった。 				
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習意欲が高く、学習中も身を乗り出して授業に参加する姿が印象的だった。白水小では児童の意見がどれもいい質問で、それらに反応するうちに時間を超過してしまったため、細かく時間を設定するなど調整を重ね、高森中央小の学習に活かすことができた。 ・子どもたちのために時間を割いて協力してくださる講師の方々や教育委員会、牧野組合、お手洗いを貸してくださるキャンプ場の佐藤様、キッズプロジェクトの皆様、事務局である草原学習館の方々など、多くの方々の協力により有意義な活動に繋げることができた。心から感謝を申し上げます。 				
ロゴマーク 使用状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">1. 使用あり ⇒</td> <td style="padding: 5px;">(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">2. 使用なし</td> <td></td> </tr> </table>	1. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	2. 使用なし	
1. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)				
2. 使用なし					


①白水仙学校 草原環境学習プログラム 活動報告書

行事名称	南阿蘇村立白水仙小学校3年生 草原環境学習「オオルリジジミとあか牛のくらし」
実施日時	令和2年6月9日(火) 10:35~11:20
参加来賓	白水仙小学校3年生13名(担当: 城乃先生)
場 所	白水仙学校
講 師	井上真希、大西佳代、岡波剛、岡くに子
準 備 物	ロモのしりワイズデーター(USB) □実物オオルリジジミ(紙製) □オオルリジジミの一生ポスター □クララ(実物) □水筒 □筆記員 □デジタルカメラ □PC
実施概要	10:20-白水仙小玄関集合 10:35-オオルリジジミ草原学習 ①挨拶・自己紹介 ②オオルリジジミのしりワイズに挑戦! ③質疑応答 ④まとめ、ふりかえり 11:20-終了
その他	・6月7日(日)オオルリジジミ学習事前打ち合わせ(大西、岡、岡くに子、井上) ・当初は5月中旬に白水仙・中松小、そして新たに同朋小を加えた3校の3年生が合同でオオルリジジミ草原学習に参加する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により合同開催が中止となった。そのような中で、白水仙では先生方が貴重な時間を割き、オオルリジジミ草原学習の時間を確保していただくことができた。フィールド学習は実施できなかったものの、次年度に繋げることで感謝している。 ・直接現地に行きオオルリジジミを拝見することができないという特別な事情の中で、座学だけでオオルリジジミを好きになってもらえるよう講師のメンバーで何度も話し合いを行った。戻られた時間の中で伝えたい内容を吟味し、時間配分にも気を付けた。 ・岡くに子先生が実物のクララを持参するなど、電子黒板だけでなく色々なところに目がいやすいように配慮してくださったおかげで、児童らは飽きることなく学習に専念できたようだ。 ・児童の学習意欲が高く、学習中も身を乗り出して授業に参加する姿が印象的だった。児童の意見がどれも面白い質問であったため、それらに反論するうちに時間を超過してしまっただことは次の回の課題となった。 ・座下に前年度の学習をまとめたポスターが掲示してあり、普段から話を聞き学習していた児童が多かったようで指導者の名前を覚えていた児童や、兄弟から話を聞き学習していた児童もいた。 ・南阿蘇村教育委員会と本年度に向けての話し合いを実施した。本年度からは新白水仙学校の行事としてオオルリジジミ草原学習を組み込み、教育委員会が協力してくれることになった。 ・オオルリジジミをみたかったけど、たのしかったです。 ・オオルリジジミと牛がかわいいうちでみんなおもしろかったです。 ・楽しいワイズをしてくれてありがとうございました。 ・おねえちゃんに「たのしいオオルリジジミ」といわれてとてもわくわくしていました。 ・がっこうのペンきょうをしたなかにいけばおもしろかったです。
児童の声	

②同朋小学校

行事名称	南阿蘇村立同朋小学校3、4、5、6年生 草原環境学習「オオルリジジミとあか牛のくらし」
実施日時	令和2年6月26日(金) 10:45~11:30
参加来賓	同朋小学校3、4年生13名、5、6年生13名 計26名(担当: 内田先生)
場 所	同朋小学校図書室
講 師	井上真希、大西佳代、岡波剛、岡くに子
準 備 物	ロモのしりワイズデーター(USB) □実物オオルリジジミ(紙製) □オオルリジジミの一生ポスター □クララ(実物) □水筒 □筆記員 □デジタルカメラ □PC
実施概要	10:20-同朋小玄関集合 図書室にて設備・動作確認・オオルリジジミの一生ハナレを掲示 10:45-出前授業 ・挨拶・自己紹介 ・動画紹介 10:55-オオルリジジミのしりワイズに挑戦! 11:20-まとめ まよめ一人一名が発表や感想を言ってもらう(ワークシートは使用しない) ふりかえり ・当初は5月中旬に白水仙・中松小、そして新たに同朋小を加えた3校の3年生が合同でオオルリジジミ草原学習に参加する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大により合同開催が中止となった。そのような中で、同朋小で理科の授業を担当している講師の大西先生が直接現地に行きお会い、3年生だけでなく今でもオオルリジジミ草原学習を続けたことのない4~6年生も学習に参加することになった。 ・先生方が貴重な時間を割き、オオルリジジミ草原学習の時間を確保してくださいました。フィールド学習は実施できなかったものの、次年度に繋がる貴重な学習となりました。 ・今年みんなで習熟する予定だったオオルリジジミが、今年も元気に飛び回っていた様子を見たいという思いで、今年はシーズン中同朋小現地で撮影を試みた。求愛行動や産卵のようすなどを動画で撮影することができ、授業の前半で済ませることができた。 ・直接現地に行きオオルリジジミを観察することができないという特別な事情の中で、座学だけでオオルリジジミを好きになってもらえるよう講師のメンバーで何度も話し合いを行った。戻られた時間の中で伝えたい内容を吟味し、時間配分にも気を付けた。 ・岡くに子先生が実物のクララを持参するなど、電子黒板だけでなく色々なところに目がいやすいように配慮してくださったおかげで、児童らは飽きることなく学習に専念できたようだ。
学習風景	
児童の声	・オオルリジジミのことを知ることができて良かった。 ・戻られた場所がしりが見えないオオルリジジミが自分たちの住んでいる南阿蘇にいるのがすごい。 ・南阿蘇にいる誠信農場にずっといてほしい。 ・本物のオオルリジジミを見たい。 ・知らなかった事が多く大変勉強になった。(先生より)

③高森中央小学校

行事名称	高森中央小学校 4 年生 異校連携学習「オオルリジミとあか牛のくらし」
実施日時	令和 2 年 6 月 18 日 (木) 13:50~14:35
参加実績	高森中央小学校 4 年生 48 名 (担当: 熊牧先生)
場 所	高森中央小学校 (体育館、音楽室)
講 師	(体育館) 岡原祐、花岡利和、花岡裕子 (音楽室) 井上真希、岡くに子
オブザーバー	田中忠 (高森町教育委員会)
準備物	ロムのしりあしウェア (USB2つ) ロボットオオルリジミ 2 セット ロオオルリジミの一生ポスター 2 枚 ロ水筒 ロ筆記具 ロデジタルカメラ OPC
実施概要	13:30-高森中央小玄関(事務室前)集合 13:50-オオルリジミ異校学習 ①挨拶・自己紹介 ②動画紹介(今年の春に撮影したオオルリジミの様子) ③オオルリジミのしりあしウェアに挑戦! ④異校勉強 ⑤まとめ、ふりかえり 14:35-終了
取材対応	・熊本日日新聞 令和 2 年 6 月 20 日 (土) 掲載 ・高森ポイントチャンネル
反省点・気づいたことなど	・新型コロナウイルスの影響で休校が続き学習時間の確保が困難な中、先生力が貴重な時間を割いてオオルリジミ異校学習を実施して下さった。49 名という大人数であったため、当初 1 クラスで講師が学習を行い、もう 1 クラスは遠隔授業でその内容を見守る予定であったが、1 クラスづつそれぞれ学習を行ったほうが児童も理解しやすいのではないかという声があり、体育館と音楽室の 2 カ所に分かれて実施した。 ・2つの学習の内容が同じものになるよう、講師のメンバーで何度も打ち合わせを行った。限られた時間の中で伝えたい内容を十分吟味し、時間配分にも気を付けた。 ・岡くに子先生が豫物大のオオルリジミや手元で写せるための撮影パネル等を 2 セット作成し、また教育委員会田中先生も大判のオオルリジミの一生ポスターを 2 セット準備するなど、電子黒板だけでなく色んなところに目がいくよう配慮して下さったおかげで、児童らは飽きることなく学習に専念できたようだ。 ・今年も元気に取り組んでいた様子を見せたいという思いで、今年はシーズン中問題が頻発で撮影を試みた。高森ポイントチャンネルも協力してくれておかげで、求援行動や産卵のようすなどを動画で撮影することができ、授業で活かすことができた。 ・児童らは、今後野病造学習など一年を通して異校連携学習を行っていくため、両校の講師の協力を重ねていきたい。
活動風景	
児童の声	体育館での学習のようす 音楽室での学習のようす ・大人になったら異校連携に重要な野病造に参加して、少ない動物種がたくさん得られるの夢を守りたい。

④高森東学園義務教育学校

行事名称	高森東学園義務教育学校 4 年生 異校連携学習「オオルリジミとあか牛のくらし」
実施日時	①フィールド学習: 令和 2 年 5 月 21 日 (木) 15:30~17:00 (神志郎先生) ②遠隔授業: 令和 2 年 5 月 28 日 (木) 11:00~11:40 ③遠隔授業: 令和 2 年 7 月 7 日 (水) 12:00~12:15
参加実績	① 4 年生担任神志郎先生 1 名 ② 東学園 4 年生 2 名+引率 2 名 (担任: 神志郎先生) ③ 東学園 4 年生 2 名+引率 2 名 (担任: 神志郎先生)
場 所	① 前原野郎 ②、③ Zoom による遠隔授業
講 師	井上真希 ①、②、③、花岡利和 ①、花岡裕子 ①
オブザーバー	岡原祐 ①、②、岡くに子 ①、②、高森町教育委員会田中忠 ①、②
準備物	ルーペ ロ解読用写真パネル (岡先生) ロ石炭 (花岡氏) ロ緊急通具 ロオオルリジミパンフレット ロ帽子 ロ長靴 ロ水筒 ロ筆記具 ロハンダー ロデジタルカメラ OPC ロオオルリジミ絵本
実施概要	15:30-高森総合センター集合 16:00-フィールド学習 (4 年生担任神志郎先生) ※石原清通 (花岡氏) ① 挨拶・自己紹介 井上真希・花岡利和・花岡裕子・岡原祐・岡くに子 ② 視野での注意事項 ③ ルーペ配布、使い方説明 ④ オオルリジミの観察、クララなど植物の観察 ⑤ まとめ、ふりかえり
取材対応	・高森ポイントチャンネル (フィールド学習及び遠隔授業の両日)
反省点・気づいたことなど	・今回は新型コロナウイルスの影響で実施自体が危ぶまれたが、学校の規程で遠隔授業という新しい授業のスタイルを使って児童にオオルリジミの魅力を紹介することができた。 ・まずは担任の先生がフィールド学習で観察を行い、オオルリジミについて理解を深めた。その後先生が児童らにオオルリジミの学習を実施、疑問点などをまとめて遠隔授業に際して講師と質疑応答をした。 ・今回は担任の先生がフィールド学習を観察し、発表報告会を聞いてくれた (7/7) ・今回児童らのフィールド学習が実施できなかったものの、先生がフィールド学習したよすは、高森ポイントチャンネルの「教育 TV」を通して児童や市民にも広く紹介されたため、なぜ児童の学習にオオルリジミが響いているのか、あか牛とオオルリジミの関連性について知るきっかけになったと感じた。 ・遠隔授業では、各話にタイムラグが発生したり、質疑が聞き取りづらかったりする面もあったが、教室におられた教育委員会の田中先生や事務局には大変ご迷惑をおかけしたが、皆さん、素晴らしい授業となった。 ・急な依頼で変更も重なり、講師の方や事務局には大変ご迷惑をおかけしたが、皆さん子どもたちのために柔軟に対応してくださり、助けられた部分が多かった。
活動風景	
児童の声	・別紙参照

令和3年度活動結果報告（2-4）

提出日	令和4年 6月 10日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：井上真希 担当者名：井上真希		
事業・活動名	草原環境学習「オオルリシジミについて学ぼう！」 ★阿蘇草原キッズプロジェクト		
実施場所	・白水小学校（南阿蘇村）、高森中央小学校・東学園義務教育学校（高森町）、 ・草原（下蹟牧野・前原牧野）		
実施日・期間	令和 3年 5月 11日 ～ 6月 4日		
実施内容	<p>①南阿蘇村立白水小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：5月11日（火）8:45～12:00 ・参加者：第3学年26名（担当：甲斐先生） ・実施状況：時期が良かったこともあり、オオルリシジミ雌雄や卵を観察することができた。 <p>②高森東学園義務教育学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：5月25日（火）8:45～12:00 ・参加者：第4学年5名（担当：小原先生） ・実施状況：24日に実施予定であったが、大雨のため翌日25日に延期。 <p>③高森中央小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施日：6月4日（金）9:50～10:35 ・参加者：第4学年40名（担当：福島先生） ・実施状況：児童数が多いこともあり、座学のみの実施。 		
実施体制 (連携・協力)	<input type="checkbox"/> 実施運営：大西佳代（南阿蘇）・花岡利和高森玲子井口 <input type="checkbox"/> アドバイザー：岡俊樹・くに子 <input type="checkbox"/> 南阿蘇村教育委員会（担当：江藤様）、高森町教育委員会（担当：植田様） <input type="checkbox"/> 草原環境学習小委員会 <input type="checkbox"/> 下蹟牧野組合（南阿蘇村）、 <input type="checkbox"/> 前原牧野組合（高森町）、鍋平キャンプ場		
実施の様子	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>白水小学校フィールド学習の様子</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>東学園義務教育学校フィールド学習の様子</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  <p>高森中央小学校座学での草原学習の様子</p> </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> </div>		

<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高森中央小学校は座学のみだったため、特に学習内容に気を遣った。45分という長丁場で児童は集中力を維持するのが大変だったと思うが、先生から「こんなに集中している4年生は初めて見た」との嬉しい言葉をいただくほど、目を輝かせて話を聞く児童の姿があった。この学習の意義を改めて感じることができた。 高森中央小学校の座学の様子と東学園義務教育学校のフィールド学習の様子が高森町内のケーブルテレビである高森ポイントチャンネルにて放送された。「子どもたちがあんなに楽しそうに授業を受けているのを初めて見た」「高森に生まれ育った私たちにとっても知らないことばかりで勉強になった」など児童の保護者や町民の方々から多くの反響をいただいた。
<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続きコロナ禍の難しい状況中、多くの方多くの方ご尽力のおかげで比較的少人数あった白水小学校と東園義務教育の事前習及びフィールド学習を実施することができた。高森中央小学校は座のみとなったものの、当日参加できない講師のメンバーと直前まで学習内容の検討を重ね、実物大オルリシジミなども活用して楽しい学びの時間とるよう心掛けた。コロナの感染状況によっては遠隔授業に変更する可能性もあったため、事故等もなく無に活動を終えることができてほっとしている。子どもたちのために多くの時間を割いて下さった講師の方々、教育委員会、牧野組合、鍋平キャンプ場佐藤様、キッズプロジェクトの皆さま、事務局の宮野様には心から感謝申し上げます。 今後の展開としては、まずはこの学習を各学校の学習行事として定着させることを第一に、将来的には一年を通した草原と人との関わりと学ぶ学習として展開していきたい。(例：草こづみ草原学習(村山牧野にて東学園義務教育学校と実施中)や野焼き学習、野草たい肥作りと農業体験、あか牛の学習、阿蘇の生物多様性を学ぶ学習など)
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし</p>

令和4年度活動結果報告 2-9

提出日	令和 5年 6月 26日	活動区分 ※事務局で記入	(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 井上真希		
	担当者名：		
事業・活動名	草原環境学習「オオルリシジミについて学ぼう！」 ★キッズ・プロジェクト		
実施場所	南阿蘇村（白水小学校）、高森町（高森中央小学校・東学園義務教育学校）、 草原（下蹟牧野・前原牧野）		
実施日・期間	令和4年5月2日、5月16日、5月25日		
実施内容	<p>・この学習プログラムは、絶滅危惧種のオオルリシジミを草原のシンボルとして位置づけ、あか牛とオオルリシジミの関わりを通して児童が阿蘇の草原の営みや草原が育む生物多様性について学び、興味を抱くことを目的とする。</p> <p>●事前学習（約1時間・教室内学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オオルリシジミについての基礎学習を実施する <p>●フィールド学習（約1時間半・野外体験学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地域の草原に出かけ、オオルリシジミを観察する ・あか牛の放牧のようす、クララなどあか牛が食べ残す草などを観察する ・オオルリシジミの生態をじっくり観察する ・放牧地で見られるオオルリシジミ以外の動植物を観察する <p>●ふりかえり学習（約1時間・教室内学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び、気づいたことを共有し、疑問点を専門家等に確認する 		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・実施運営：大西佳代（南阿蘇）・花岡利和（高森）・花岡玲子（高森） ・井上真希（南阿蘇・高森） ・アドバイザー：岡俊樹・岡くに子 ・南阿蘇村教育委員会 ・高森町教育委員会 ・草原環境学習小委員会 ・下蹟牧野組合（南阿蘇村） ・前原牧野組合（高森町）、鍋平キャンプ場（高森町） ・参加者：南阿蘇村立白水小学校3年生、 高森町立高森中央小学校及び東学園義務教育学校4年生 		

実施の様子		
	高森中央小学校の観察風景	高森中央小学校の観察のようす
		
	白水小学校記念撮影	東学園義務教育学校の観察のようす
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者：5/2 白水小学校第3学年 30名（男子 15名、女子 15名） 5/15 事前学習・5/16 フィールド学習・東学園義務教育学校第4学年6名（男子 3名、女子 3名）、 5/25 高森中央小学校第4学年35名（男子 15名、女子 20名）、 ・オオルリシジミのことだけでなく、草原のなりたちや人の営み、そこで育まれた生物多様性の魅力にふれ、阿蘇の草原の価値を知るきっかけになったようだ。 ・熊本県文化企画・世界遺産推進課の職員の視察もあった。 	
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・天候不順のため、当日朝に中央小は延期の連絡があり、東学園義務教育学校は事前学習のみ実施したい旨相談があった。東学園義務教育学校は 8 時 50 分から 10 時 35 分まで授業を行い、とても喜んでいただけた。翌日 10 時よりフィールド学習を実施した。 ・理由はわからないが、今シーズンはオオルリシジミ自体がすごく少なかった。最後の最後に飛んでいるオスが見られたが、普段のように十分な観察ができず残念だった。その代わりに、草原性のチョウで絶滅危惧種のギンイチモンジセセリを児童が見つけ観察できた。牛の草を食む様子もじっくり観察でき、子どもたちもとても喜んでいた。 	
ロゴマーク使用状況	1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) ②. 使用なし	

伊藤園賞

草原再生オペレーター組合

採草による未利用草原の再生

令和2年度活動結果報告（22）

提出日	令和3年 6月28日	活動区分 ※事務局で記入	(4)(1)																																																
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：草原再生オペレーター組合 担当者名：中坊 真																																																		
事業・活動名	採草による未利用草原の再生																																																		
実施場所	阿蘇市内																																																		
実施日・期間	令和2年 4月 1日～ 令和3年 3月31日																																																		
実施内容	<p>・8～9月に飼料用、11月～3月に堆肥・マルチ用の野草の採草を行い、主に熊本県内の農家に対して販売を行いました。堆肥・マルチ用の野草のチラシを新たに製作し、県内一部の地域に新聞折込を行いました。</p>																																																		
実施体制 (連携・協力)	<p>・草原再生オペレーター組合が主体となり事業を推進し、事業に係る牧野組合との協議や野草販売等については、NPO 法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇市、阿蘇地域振興局、阿蘇地域世界農業遺産推進協会等と連携しながら事業を実施しました。</p>																																																		
実施の様子	<p>The first chart, '野草生産量の推移', shows forage production in tons from 2010 to 2020. The second chart, '年度別総売上実績', shows annual total sales in ten thousand yen from 2010 to 2020.</p> <table border="1"> <caption>野草生産量の推移 (単位: トン)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>生産量 (トン)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>2010</td><td>150</td></tr> <tr><td>2011</td><td>100</td></tr> <tr><td>2012</td><td>120</td></tr> <tr><td>2013</td><td>150</td></tr> <tr><td>2014</td><td>180</td></tr> <tr><td>2015</td><td>200</td></tr> <tr><td>2016</td><td>220</td></tr> <tr><td>2017</td><td>250</td></tr> <tr><td>2018</td><td>280</td></tr> <tr><td>2019</td><td>260</td></tr> <tr><td>2020</td><td>300</td></tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>年度別総売上実績 (単位: 万円)</caption> <thead> <tr><th>年度</th><th>総売上 (万円)</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>H22 (2010)</td><td>100</td></tr> <tr><td>H23 (2011)</td><td>200</td></tr> <tr><td>H24 (2012)</td><td>250</td></tr> <tr><td>H25 (2013)</td><td>400</td></tr> <tr><td>H26 (2014)</td><td>450</td></tr> <tr><td>H27 (2015)</td><td>500</td></tr> <tr><td>H28 (2016)</td><td>700</td></tr> <tr><td>H29 (2017)</td><td>800</td></tr> <tr><td>H30 (2018)</td><td>1000</td></tr> <tr><td>R1 (2019)</td><td>800</td></tr> <tr><td>R2 (2020)</td><td>1500</td></tr> </tbody> </table>			年度	生産量 (トン)	2010	150	2011	100	2012	120	2013	150	2014	180	2015	200	2016	220	2017	250	2018	280	2019	260	2020	300	年度	総売上 (万円)	H22 (2010)	100	H23 (2011)	200	H24 (2012)	250	H25 (2013)	400	H26 (2014)	450	H27 (2015)	500	H28 (2016)	700	H29 (2017)	800	H30 (2018)	1000	R1 (2019)	800	R2 (2020)	1500
年度	生産量 (トン)																																																		
2010	150																																																		
2011	100																																																		
2012	120																																																		
2013	150																																																		
2014	180																																																		
2015	200																																																		
2016	220																																																		
2017	250																																																		
2018	280																																																		
2019	260																																																		
2020	300																																																		
年度	総売上 (万円)																																																		
H22 (2010)	100																																																		
H23 (2011)	200																																																		
H24 (2012)	250																																																		
H25 (2013)	400																																																		
H26 (2014)	450																																																		
H27 (2015)	500																																																		
H28 (2016)	700																																																		
H29 (2017)	800																																																		
H30 (2018)	1000																																																		
R1 (2019)	800																																																		
R2 (2020)	1500																																																		
成果	<p>① 草原保全・再生への貢献 令和2年度は約158ha（令和元年度約142ha）の採草を行い、約478トン（令和元年度約409トン）の野草を収穫しました。前年度は、悪天候で飼料用野草ロールの採草が遅れ、在庫が積みあがりましたが、無事在庫分が販売できたことで、今年度の売上が大きく伸びました。</p> <p>② 活動の持続性・発展性 採草量を拡大していくためには、未利用草地を多く抱える牧野組合の協力による採草面積の拡大と、堆肥用の販路拡大の両輪で進めていく事が大切です。持続的な活動に繋がるように仕組みづくりを進めていきます。</p>																																																		
実施者の感想	<p>草原の野草利用が草原保全につながる事をアピールする事で、野草飼料用及び野草堆肥用の採草量と販売量を拡大・向上させたいと思います。今後は、新規顧客の増加に合わせて安定供給できるように、生産体制の充実が重要となっています。特に、OP 組合員の拡大に向けた広報活動を積極的に進めていきたいと思っています。また組織の基盤強化を図る為に、法人化を検討しています。</p>																																																		
ロゴマーク 使用状況	①. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	<p>(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など) 堆肥・マルチ用野草ロールのチラシに記載</p>																																																	

令和3年度活動結果報告（3-6）

提出日	2022年7月15日	活動区分 ※事務局で記入	(3)(1)																																																																																											
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：草原再生オペレーター組合 担当者名：中坊 真																																																																																													
事業・活動名	採草による未利用草原の再生																																																																																													
実施場所	阿蘇市内																																																																																													
実施日・期間	2021年3月4月1日～ 2022年3月31日																																																																																													
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・8月下旬～9月上旬に飼料用、11月～2月に堆肥・マルチ用の野草の採草を行い、主に熊本県内の農家に対して販売を行いました。年間の合計採草日は78日で前年度とほぼ同じでした。 																																																																																													
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・草原再生オペレーター組合が主体となり事業を推進し、事業に係る牧野組合との協議や野草販売等については、NPO 法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇市、阿蘇地域振興局、阿蘇地域世界農業遺産推進協会等と連携しながら事業を実施しました。 																																																																																													
実施の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>野草生産量の推移</p> <p>(kg)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>生産量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2010</td><td>150,000</td></tr> <tr><td>2011</td><td>50,000</td></tr> <tr><td>2012</td><td>100,000</td></tr> <tr><td>2013</td><td>150,000</td></tr> <tr><td>2014</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>2015</td><td>300,000</td></tr> <tr><td>2016</td><td>350,000</td></tr> <tr><td>2017</td><td>450,000</td></tr> <tr><td>2018</td><td>400,000</td></tr> <tr><td>2019</td><td>480,000</td></tr> <tr><td>2020</td><td>450,000</td></tr> <tr><td>2021</td><td>440,000</td></tr> </tbody> </table> </div> <div style="text-align: center;"> <p>年度別総売上実績</p> <p>万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>飼料用</th> <th>堆肥・マルチ用</th> <th>送料</th> <th>総売上</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2010</td><td>50</td><td>50</td><td>50</td><td>150</td></tr> <tr><td>2011</td><td>100</td><td>100</td><td>100</td><td>300</td></tr> <tr><td>2012</td><td>150</td><td>150</td><td>150</td><td>450</td></tr> <tr><td>2013</td><td>200</td><td>200</td><td>200</td><td>600</td></tr> <tr><td>2014</td><td>250</td><td>250</td><td>250</td><td>750</td></tr> <tr><td>2015</td><td>300</td><td>300</td><td>300</td><td>900</td></tr> <tr><td>2016</td><td>350</td><td>350</td><td>350</td><td>1,050</td></tr> <tr><td>2017</td><td>400</td><td>400</td><td>400</td><td>1,200</td></tr> <tr><td>2018</td><td>450</td><td>450</td><td>450</td><td>1,350</td></tr> <tr><td>2019</td><td>500</td><td>500</td><td>500</td><td>1,500</td></tr> <tr><td>2020</td><td>550</td><td>550</td><td>550</td><td>1,650</td></tr> <tr><td>2021</td><td>500</td><td>500</td><td>500</td><td>1,500</td></tr> </tbody> </table> </div> </div>			年	生産量 (kg)	2010	150,000	2011	50,000	2012	100,000	2013	150,000	2014	300,000	2015	300,000	2016	350,000	2017	450,000	2018	400,000	2019	480,000	2020	450,000	2021	440,000	年	飼料用	堆肥・マルチ用	送料	総売上	2010	50	50	50	150	2011	100	100	100	300	2012	150	150	150	450	2013	200	200	200	600	2014	250	250	250	750	2015	300	300	300	900	2016	350	350	350	1,050	2017	400	400	400	1,200	2018	450	450	450	1,350	2019	500	500	500	1,500	2020	550	550	550	1,650	2021	500	500	500	1,500
年	生産量 (kg)																																																																																													
2010	150,000																																																																																													
2011	50,000																																																																																													
2012	100,000																																																																																													
2013	150,000																																																																																													
2014	300,000																																																																																													
2015	300,000																																																																																													
2016	350,000																																																																																													
2017	450,000																																																																																													
2018	400,000																																																																																													
2019	480,000																																																																																													
2020	450,000																																																																																													
2021	440,000																																																																																													
年	飼料用	堆肥・マルチ用	送料	総売上																																																																																										
2010	50	50	50	150																																																																																										
2011	100	100	100	300																																																																																										
2012	150	150	150	450																																																																																										
2013	200	200	200	600																																																																																										
2014	250	250	250	750																																																																																										
2015	300	300	300	900																																																																																										
2016	350	350	350	1,050																																																																																										
2017	400	400	400	1,200																																																																																										
2018	450	450	450	1,350																																																																																										
2019	500	500	500	1,500																																																																																										
2020	550	550	550	1,650																																																																																										
2021	500	500	500	1,500																																																																																										
成果と課題	<p>③ 草原保全・再生への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年度の採草面積は約151.7ha（令和2年度約158ha）で、約442トン（令和2年度約478トン）の野草を収穫しました。前年度より地元の牧野組合での採草が増えたこと等により、当組合で採草できる未利用草地在りました。 ・野草売上については、2019年度と2020年度の売上の平均が約1,160万円で、2021年度は1,165万円であったことから、ほぼ例年通りの売上となりました。 <p>④ 活動の持続性・発展性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2021年12月17日に、九州農政局より「ディスカバー農山漁村の宝（コミュニティ部門）」を受賞しました。農業新聞や熊本日日新聞で報道され、野草に関する問い合わせが増え、新規顧客獲得につながりました。今後、採草量を拡大していくためには、未利用草地在る多く抱える牧野組合の協力と、堆肥用の販路拡大も重要です。持続的な活動につながるよう仕組みづくりを進めていきます。 																																																																																													
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度は農事組合法人を設立し、当組合の信用性を高め、持続的な経営を目指します。また、未利用草地在るの開拓・新規顧客の獲得・草原再生オペレーター組合員の拡大に向けた広報活動を積極的に進めていきたいと思ひます。 																																																																																													
ロゴマーク 使用状況	<p>①. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>②. 使用なし 堆肥・マルチ用野草ロールのチラシに記載</p>																																																																																													

令和4年度活動結果報告 3-3

提出日	2023年5月31日	活動区分 ※事務局で記入	(3)(1)																																						
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 草原再生オペレーター組合																																								
	担当者名：中坊 真																																								
事業・活動名	採草による未利用草地の再生																																								
実施場所	阿蘇市内																																								
実施日・期間	2022年4月1日～ 2023年3月31日																																								
実施内容	・8月下旬～9月上旬に飼料用、11月～3月中旬に堆肥・マルチ用野草の採草を行い、主に熊本県内の農家に対して販売を行った。年間の合計採草日は75日で前年度とほぼ同じだった。																																								
実施体制 (連携・協力)	・草原再生オペレーター組合が主体となり事業を推進し、事業に係る牧野組合との協議や野草販売等についてはNPO法人九州バイオマスフォーラム、阿蘇市、阿蘇地域振興局、阿蘇地域世界農業遺産推進協会等と連携しながら事業を実施した。																																								
活動の状況	<p>・採草面積の推移を以下のグラフに示す。2018年度から2022年度の最近の5年間については、ほぼ横ばいで推移しているが、直近の2年間は地元牧野組合で採草利用するようになったため、未利用の草地が減少し、当組合の採草面積が減少している。</p> <table border="1"> <caption>採草面積の推移</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>採草面積 (ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2013</td><td>55</td></tr> <tr><td>2014</td><td>150</td></tr> <tr><td>2015</td><td>130</td></tr> <tr><td>2016</td><td>120</td></tr> <tr><td>2017</td><td>45</td></tr> <tr><td>2018</td><td>10</td></tr> <tr><td>2019</td><td>20</td></tr> <tr><td>2020</td><td>38</td></tr> <tr><td>2021</td><td>38</td></tr> <tr><td>2022</td><td>95</td></tr> <tr><td>2023</td><td>105</td></tr> <tr><td>2024</td><td>130</td></tr> <tr><td>2025</td><td>150</td></tr> <tr><td>2026</td><td>145</td></tr> <tr><td>2027</td><td>155</td></tr> <tr><td>2028</td><td>145</td></tr> <tr><td>2029</td><td>140</td></tr> <tr><td>2030</td><td>138.2</td></tr> </tbody> </table>			年度	採草面積 (ha)	2013	55	2014	150	2015	130	2016	120	2017	45	2018	10	2019	20	2020	38	2021	38	2022	95	2023	105	2024	130	2025	150	2026	145	2027	155	2028	145	2029	140	2030	138.2
年度	採草面積 (ha)																																								
2013	55																																								
2014	150																																								
2015	130																																								
2016	120																																								
2017	45																																								
2018	10																																								
2019	20																																								
2020	38																																								
2021	38																																								
2022	95																																								
2023	105																																								
2024	130																																								
2025	150																																								
2026	145																																								
2027	155																																								
2028	145																																								
2029	140																																								
2030	138.2																																								
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<p>①活動目標の達成具合 ・2022年度の採草面積目標を160haとしていたが、実績は138.2ha（前年比-13.5ha）となった。</p> <p>②成果と課題 ・2022年12月23日に熊本県農業コンクール大会で「優良賞」を受賞し、熊本日日新聞や阿蘇市の広報誌に記事が掲載された。今後は、採草地の確保と堆肥・マルチ用野草の販路拡大が重要な課題とされている。受賞を活かして、野草堆肥の魅力をメディアに取り上げてもらうなどの対策を検討し、持続的な活動を進めるための仕組み作りを進めていく。</p>																																								
実施者の感想	2023年度は、草原の野草利用が草原保全につながる事をアピールすることで、野草販売量の拡大・向上に努めたいと思う。今後は、農業法人化したことで、当組合の信頼性をさらに高め、持続的な経営を目指す。																																								
ロゴマーク 使用状況	①. 使用あり ⇒	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)																																							
	②. 使用なし	堆肥・マルチ用野草ロールのチラシに記載																																							

阿蘇地域世界農業遺産推進協会 会長賞

認定 NPO 法人 阿蘇花野協会

阿蘇花野再生プロジェクト
～生物多様性豊かな阿蘇の草原を
未来に引き継ぐ～

令和2年度活動結果報告（11）

提出日	2021年6月30日	活動区分 ※事務局で記入	(2)(1)(4)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：認定NPO法人 阿蘇花野協会		
	担当者名：専務理事 瀬井純雄		
事業・活動名	阿蘇花野再生プロジェクト ～生物多様性豊かな阿蘇の草原を未来に引き継ぐ～		
実施場所	Pro Nature Reserve 阿蘇花野トラスト（阿蘇郡高森町野尻・尾下）		
実施日・期間	2020年4月1日～ 2021年3月31日		
実施内容	<p>(1) 草刈り・草集め・野草コンパクト作り <2020年6月～12月> ・およそ10haの採草地について草刈りや野草コンパクト作りを行った。</p> <p>(2) 防火帯づくり・野焼き <2019年6月～2020年3月> ・トラスト地の野焼きを実施するため、6月から11月にかけて1500m×20mの防火帯作りを行い、3月26日に野焼きを実施した。</p> <p>(3) 茅刈り <2021年1月～3月> ・再生した草原に生育するススキを有効利用するために、茅刈りを行った。</p> <p>(4) 阿蘇野の花観察会 <2020年7月、8月、9月> ・再生した草原の植物を観察する「阿蘇野の花観察会」を5回実施した。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<p>阿蘇花野協会：諸活動実施、諸調査実施、トラスト地再生・保全 地元農家：野焼き、草刈り、野草コンパクト作り、防火帯作り、 パトロール等 協力 阿蘇茅草工房：茅刈り指導、茅束買い取り</p>		
実施の様子	<p>草刈り・草集めについては、環境省生物多様性保全推進事業を受託して4haを保全をすることができた。阿蘇世界農業遺産の基金で、野草コンパクト作りを行って、およそ3haの採草地を保全した。茅刈りは、地元農家の協力で行うことができた。阿蘇野の花観察会は、春・初夏・夏・盛夏・秋の5回予定したが、新型コロナウイルス感染防止のため春・初夏を中止、残り3回各30名程度の参加で実施した。</p>		
成果	<p>阿蘇花野協会がナショナル・トラストで取得した土地約20ha（阿蘇花野トラスト）について、草刈り・草集め・野草コンパクト作り、防火帯作り、野焼きなどさまざまな管理を実施することで、草原として維持することができた。</p> <p>その結果、阿蘇花野トラストに生育・生息する32種の絶滅危惧種の生育環境を守ることができた。また、地元農家等の協力を得て茅刈りを実施し2743束の茅束を、また野草コンパクトを1514個作り、野草を資源として利用するシステムを構築した。</p>		
実施者の感想	<p>阿蘇世界農業遺産の基金を利用して、野草コンパクト作りを行った。その結果、2.8haの草原で1514個を作ることができ、1haあたりおよそ500個生産できることがわかった。チラシを作って購入者を募ったら、大津町や山都町、産山村などから購入依頼があり、トマトのマルチや土壌改良材などとして利用してもらうことができた。野草コンパクトをすき込む</p>		

	と病気が出ない・軽くて取扱が楽、こういうのを探していた、などの農家の声があった。今後利用拡大の可能性があり、茅刈りのように阿蘇全体に広がっていくと草原保全に寄与すると思われる。	
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ 2. <u>使用なし</u>	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)

<会報誌「花のたより」2021.春号より>



草刈り(10/4)



草集め(10/11)



茅刈り講習会



茅束

茅刈り、野草コンパクトづくりの様子

阿蘇花野協会でチラシを作成しました。

野草コンパクト販売用チラシ

令和3年度活動結果報告（3-1）

提出日	2022年6月30日	活動区分 ※事務局で記入	(3)(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：認定NPO法人 阿蘇花野協会 担当者名：専務理事 瀬井純雄		
事業・活動名	阿蘇花野再生プロジェクト ～草を「資源」として利用するシステムの再構築～		
実施場所	Pro Nature Reserve 阿蘇花野トラスト（阿蘇郡高森町野尻・尾下）		
実施日・期間	2021年4月1日～ 2022年3月31日		
実施内容	<p>(1) 草刈り・草集め・野草コンパクト作り <2021年5月～12月> ・およそ10haの採草地について草刈りや野草コンパクト作りを行った。</p> <p>(2) 防火帯づくり・野焼き <2021年6月～2022年3月> ・トラスト地の野焼きを実施するため、6月から11月にかけて1500m×20mの防火帯作りを行い、3月20日に野焼きを実施した。</p> <p>(3) 茅刈り <2022年1月～3月> ・再生した草原に生育するススキを有効利用するために、茅刈りを行った。</p> <p>(4) 阿蘇野の花観察会 <2021年4月、6月、7月、8月、9月> ・再生した草原の植物を観察する「阿蘇野の花観察会」を5回実施した。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇花野協会：諸活動実施、諸調査実施、トラスト地再生・保全 地元農家：野焼き、草刈り、野草コンパクト作り、防火帯作り、パトロール等協力 阿蘇茅葺工房：茅刈り指導、茅束買い取り 		
実施の様子	<ul style="list-style-type: none"> 草刈り・草集めは、阿蘇花野協会会員や(株)パソナの九州各支店の方々、地元農家の協力を得て約5haを保全をすることができた。この活動で刈干パック作りを行って、山都町や産山村のトマト農家で草マルチや土壌改良材として使ってもらった。 茅刈りは、地元農家の協力で例年通り行うことができた。 阿蘇野の花観察会は、春・初夏・夏・盛夏・秋の5回予定通り、各30名程度の参加で実施した。 		
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 阿蘇花野協会がナショナル・トラストで取得した土地約20ha（阿蘇花野トラスト）について、草刈り・草集め・刈干パック作り、防火帯作り、野焼きなどさまざまな管理を実施することで、草原として維持することができた。その結果、阿蘇花野トラストに生育・生息する32種の絶滅危惧種の生育環境を守ることができた。また、地元農家等の協力を得て茅刈りを実施し1940束の茅束を、また刈干パックを1612個作り、野草を資源として利用することができた。 		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> 2004年に活動を開始して19年目であるが、活動を行っているトラスト地のまわりの環境がかなり変化している。トラスト地の周辺はほぼ杉林だったのが、20ヶ所近く全伐されて、草地が増えている。その後は植林されたり、放置されたりして、延焼の危険性が高まっている。そのため、来年度の野焼きは中止を決定した。次年度は、野焼きをしないで草原を維持する方法を探っていきたい。 		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和4年度活動結果報告 3-1

提出日	令和5年6月23日	活動区分 ※事務局で記入	(3)(1)(2)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：認定NPO法人 阿蘇花野協会		
	担当者名：専務理事 瀬井純雄		
事業・活動名	阿蘇花野再生プロジェクト ～草を資源として活用し、生物多様性豊かな草原「花野」を未来に引き継ぐ～		
実施場所	Pro Natura Reserve 阿蘇花野トラスト（阿蘇郡高森町野尻・尾下）		
実施日・期間	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日		
実施内容	<p>(1) 草刈り・草集め・刈干パック作り <2022年5月～12月> およそ10haの採草地について草刈りや刈干パック作りを行った。</p> <p>(2) 防火帯づくり・刈草焼き <2022年6月～2023年3月> トラスト地の刈草焼きを実施するため、6月から11月にかけて1500m×20mの防火帯作りを行い、11月5日に刈草焼きを実施した。</p> <p>(3) 茅刈り <2023年2月～3月> 再生した草原に生育するススキを有効利用するために、茅刈りを行った。</p> <p>(4) 阿蘇野の花観察会 <2022年4月、6月、7月、8月、9月> 再生した草原の植物を観察する「阿蘇野の花観察会」を5回実施した。</p>		
実施体制（連携・協力）	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇花野協会：諸活動実施、諸調査実施、トラスト地再生・保全 ・地元農家：野焼き、草刈り、刈干パック作り、防火帯作り、パトロール等協力 ・阿蘇茅葺工房：茅刈り指導、茅束買い取り 		
実施の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・草刈り・草集めは、阿蘇花野協会会員や(株)パソナの九州各支店の方々、地元農家の協力を得て約5haを保全することができた。この活動で刈干パック作りを行って、山都町や産山村のトマト農家で草マルチや土壌改良材として使ってもらった。 ・茅刈りは、地元農家の協力で行うことができた。 ・阿蘇野の花観察会は、春・初夏・夏・盛夏・秋の5回予定通り、各30名程度の参加で実施した。 		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇花野協会がナショナル・トラストで取得した土地約20ha（阿蘇花野トラスト）について、草刈り・草集め・刈干パック作り、防火帯作り、刈草焼きなどさまざまな管理を実施することで、草原として維持することができた。 ・その結果、阿蘇花野トラストに生育・生息する56種の絶滅危惧種の生育環境を守ることができた。 ・また、地元農家等の協力を得て茅刈りを実施し311束の茅束を、また刈干パックを2392個作り、野草を資源として利用することができた。 		

<p>実施者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度は、野焼きを中止したが草刈りと刈草焼き、放牧でこれまで通りに草原を維持することができた。 ・ただ、費用的には草刈り場所が増えて2倍近くのコストがかかることとなった。 ・草資源の利用では、刈干パックが2倍と倍増した。利用した農家も12軒となり昨年に比べ倍増した。軽くてハウスでの取り回しがとても良いと評判で、新規就農のトマト農家の方々からの注文が多く入った。熊本は全国一のトマト生産県なので、刈干パックの良さを県全体に広めていきたい。 	
<p>ロゴマーク 使用状況</p>	<p>1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし</p>	<p>(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p>

熊本県畜産農業協同組合連合会 会長賞

狩尾牧野組合（阿蘇市）

熊本型放牧

令和2年度活動結果報告（2）

提出日	令和3年 6月4日	活動区分 ※事務局で記入	(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：狩尾牧野組合		
	担当者名：組合長 中川泰志		
事業・活動名	熊本型放牧		
実施場所	狩尾牧野		
実施日・期間	令和2年4月20日～令和2年11月30日		
実施内容	<p>私たちの牧野は、北外輪山の西側に位置し、周年放牧や、牧草生産などをして原野を利用しながら、毎年野焼きを行い、草原保全に努めている。</p> <p>しかし、狩尾地区の有畜農家だけでは、牧野の管理、維持が難しく、草原を守ることが困難になってきている。</p> <p>そこで、空いている放牧地、牧草地で城南、城北地区の有畜農家の牛を預かっている。</p>		
実施体制 (連携・協力)	<ul style="list-style-type: none"> ・牧野組合員 ・事業参加者：家保、畜協、畜連など 		
実施の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回のバイチコールの散布 ・牛体番号の記入 ・熊本型放牧牛については、健康検査を実施。 		
	 <p>野焼き</p>	 <p>バイチコール散布</p>	 <p>肥料散布</p>
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○野焼き：阿蘇全体一斉野焼き時、狩尾牧野 500ha。別日に、牧野内 100ha。 ○採草作業：ロール約 160 個 ○牧草、採草のため肥料散布。4月、8月の2回 500kg フレコン 30 		
実施者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・草原維持のため牛を放牧することで、草地の管理をするとともに、5月～7月と作付けなどで大変な農繁期を家畜を放牧することで軽減でき、牛たちにとっては、放牧によって強い足、腰を作り、栄養価の高い青草を摂取し、エサ代を抑えられる。 		
ロゴマーク 使用状況	<ul style="list-style-type: none"> 1. 使用あり ②. 使用なし 		

環境省九州地方環境事務所 所長賞

日本緑化工学会

草原活用を目的にした短型化試験・
種子の活用試験

令和4年度活動結果報告 3-5 (中村)

提出日	令和 5 年 6 月 15 日	活動区分 ※事務局で記入	(3)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名：中村華子/日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会 担当者名： 中村華子		
事業・活動名	草原再生を目的にした短草型化試験・種子の活用試験		
実施場所	波野地区(荻岳、町古閑牧野)、南小国地区(下の道、押戸石)など		
実施日・期間	令和4年 8月 ~ 令和 5年 3月		
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・野草資源の活用方法のひとつとして緑化工事に種苗の利用を推奨している。そのために必要となる基礎データを調査して蓄積する。 ・さらに実際に工事で採用・活用してもらうための活動を行った。ススキ、ヨモギ、ヤマハギは工事の主要植物だが、阿蘇産の種子を採取して調査したところ、立地条件や時期を調整すれば十分活用できるというデータを得ることができた。 ・2022年4月に、烏帽子岳山頂付近での登山道整備の一部に阿蘇のススキなど3種の種子を使用して緑化を試行実施した。経過は継続観察中だが、順調に発芽している様子を確認している。 ・2022年11月は熊本県阿蘇振興局、国立公園管理事務所と共催で種子採取のワークショップを行い、地域への周知活動を行った。 ・熊本県の工事で使用する予定になっている。事例を追加していった、より多くの利用につなげていきたいと考えている。 		
実施体制(連携・協力)	荻岳牧野、町古閑牧野、下の道採草組合、押戸石の丘、道の駅波野・神楽苑、なみの高原やすらぎ交流館、フォーリーフクローバーなど。		
実施の様子	(参加者の感想)に追記		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	(実施内容)の記載に含めました。		
実施者の感想	秋の種子採取ワークショップに参加した緑化資材メーカーのホームページに、企業からの参加者と学生参加者が感想をよせてくれた。現地で直接、様々な主体と活動をすることで、新しい発見や所感を持ってくれたと感じている。 (別紙：ロンタイ株式会社(日本緑化工学会賛助会員)ウェブサイトのコピー)		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

○阿蘇地域性種苗の採取活動の様子（ロンタイ（株）ウェブサイトより）

2023/06/16 17:42 阿蘇地域性種苗の採取活動に参加しました！！ | 法面緑化面積国内No.1のロンタイ

IS09001：2015 認証取得
登録製造番号 JQA-QM675E

TOPページ サイトマップ お問い合わせはこちら

キーワードを入れてください

NEW 06月16日更新

施工実績 法面緑化ご提案事例 製品情報 よくあるご質問 SDGs 会社概要 採用情報

SDGsの取り組み

阿蘇地域性種苗の採取活動に参加しました！！

2023年01月10日

皆様、新年明けましておめでとうございます。
2023年も引き続き、ロンタイSDGsの様々な取り組みをご紹介させていただきます☆
本年もよろしくお願いいたします！！

さて、今回は、2022年11月5日～7日、20日～23日にかけて参加させていただいた、
熊本県・阿蘇地域での地域性種苗採取活動に関してです！



この活動は、日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会様が主催されています。
担当者である日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会 阿蘇ワーキングチーム代表 中村 貴子様に、
活動に関してコメントをお寄せいただきました。

生態・環境緑化研究部会では、生物多様性の保全・地域性種苗の普及にむけて活動しています。
阿蘇地域では2017年からプロジェクトを推進、草地の修復、自然再生を行うとともに
地域性種苗を採種し、その活用を推奨しています。

今回は環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所、熊本県阿蘇地域振興局と協力して、
地域性種苗の採取を行うワークショップを企画しました。

地域の種苗を活用した事業を推進することは、阿蘇の草原維持/再生の観点からも
重要な取り組みとなります。

牧野等地域の皆さんからも、野草が活用できれば草原の保全につながる、として、
積極的にご参加、ご協力をいただいているものです。

学会員の皆さんに賛同し、参加してもらえらる取り組みを、今後も継続的に行っていきたいと考えています。

本プロジェクトの詳細はこちらから▼
[日本緑化工学会 熊本・阿蘇プロジェクト](#)

種子を採取することにより、地産地消、資源の活用だけでなく、
草原の維持管理や保全、地域活性化にも繋がります。

私たち「緑化を通じた環境保全」や「地域産業の活性化」という目標を挙げて
SDGsへの取り組みを進めている中で、この活動に共感、賛同し、

SDGsについて

- [ロンタイのSDGs](#)
- [SDGsの取り組み](#)
- [SDGs宣言までの道のり](#)
- [目標達成までの道のり](#)

法面緑化に関する
ご相談はロンタイへ

お問い合わせフォーム

カタログ・図面一覧

特注品の製造について

種子と配合について

研究開発・生産体制

ロンタイ国内産種子

ロンタイのSDGs

イブロスに実動中
PDFダウンロードは
こちらから

Arch-LOG

GMO GlobalSign Secure
グローバルサイン認証サイト

https://www.rontai.co.jp/sdgs_action/阿蘇地域性種苗の採取活動に参加しました！！

今回初めて参加させていただきました！

参加されていたのは官公庁や学会関係の皆様、学生の皆様、地域の皆様、そして私たちのような緑化に関わる企業の方々です。まさに産官学民連携で進められている活動だと感じました。



また、この活動に参加された学生の皆様にも、感想をいただきました！！

(和歌山大学大学院 眞野 丈穂様より)

阿蘇地域性種苗の採取活動では実際に種苗を採取するのに加えて、ワークショップなどの意見交流会を通して、地域性種苗の重要性や課題を学ぶことができ、とても貴重な経験を得ることができました。

(和歌山大学大学院 中野 謙太郎様より)

今回の阿蘇地域での活動を通して、地域性種苗を使うことの利点や重要性とともに、普及の課題や維持管理などの課題を知り、今後阿蘇地域やそれ以外での地域での地域性種苗をどのようにすれば、この課題を解決できるのかを考えさせられるいい機会になりました。

(和歌山大学大学院 小林 拓真様より)

天気にも恵まれ、広大な草原での採取活動はとても気持ちがよかったです。これからも、採取活動を通じて地域性種苗の可能性や課題について考えていきたいです。

(東京農業大学の皆様より)

実際に自らの手で種子を採取し、様々な立場の方のお話を聞くことによって、地域性の植物を用いた緑化事業に取り組む事の大切さや難しさ、自分たちがやっている研究の意義をより強く実感できました。



中村様、そして学生の皆様、貴重なお話をありがとうございました！！

私たちも、メーカーとしての知見を皆様と共有させていただいたり、この活動に関わる様々な立場の皆様の考えや想い、熱量を知ることができ、とても有意義な経験をさせていただきました。このプロジェクトは今後も継続して進められていく予定ですので、さらに良い活動となるよう、これからも協力して取り組んでいきたいと思っております！！今後の活動に関しては、随時HPにてご紹介していく予定です！

阿蘇草原再生協議会 会長賞

熊本県農業研究センター草地畜産研究所

阿蘇産草原・野草を活用した肉用牛
発酵 TMR の開発及び給与試験

令和2年度活動結果報告（24）

提出日	令和 3年 6月 30日	活動区分 ※事務局で記入	(4)(1)(5)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
	担当者名： 古田 雅子		
事業・活動名	阿蘇産牧草・野草を活用した肉用牛発酵 TMR の開発及び給与試験		
実施場所	熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
実施日・期間	平成31年 4月 1日～ 令和3年 3月31日		
実施内容	<p>①阿蘇産野草を活用した発酵 TMR の褐毛和種肥育牛への給与試験 阿蘇産野草を活用した発酵 TMR を全期間(肥育前期、中期、後期用を調整)給与し、発育、肉質を調査した。供試牛は3頭。 試験(肥育)期間：令和元年10月～令和3年1月(9～24か月齢)</p> <p>②阿蘇産寒地型牧草を活用した発酵 TMR の褐毛和種肥育牛への給与試験 阿蘇産牧草を活用した発酵 TMR を全期間(肥育前期、中期、後期用を調整)給与し、発育、肉質を調査した。供試牛は3頭。 試験(肥育)期間：平成31年4月～令和2年7月(9～24か月齢)</p>		
実施体制 (連携・協力)	協力機関：熊本県農業研究センター畜産研究所(試験設計、飼料設計等) 株式会社ネットワーク大津(発酵 TMR 製造)		
実施の様子			
	野草発酵 TMR	①の出荷時	①のリブロース
成果	<p>①肥育終了時体重：755.5kg、枝肉重量：466.7kg、BMSNo.：3.5 TMR 摂取量：13.1kg/日・頭、総野草摂取量：約 18 t</p> <p>②肥育終了時体重：816.7kg、枝肉重量：512.5kg、BMSNo.：2.7 TMR 摂取量：13.9kg/日・頭</p> <p>①②ともに一部肉質分析中であり、データはとりまとめ中のため未公表</p>		
実施者の感想	<p>野草発酵 TMR は、前期では残飼が多いが、中期、後期は問題なく採食しており、発育も目標体重としていた 750kg を達成したため、十分使用できると考えている。前期用は、原料構成を見直す必要がある。</p> <p>牧草発酵 TMR も採食、発育は問題なく、十分使用できると考えている。</p> <p>牧草発酵 TMR、野草発酵 TMR ともに、2週間程度食い止まる時期が各期であるので、その時期には、別の飼料(特に乾草を欲しがるように感じた)を少し追加するといいいのではないかと考えている。</p>		
ロゴマーク 使用状況	<p>1. 使用あり ⇒ (ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)</p> <p>2. 使用なし</p>		

令和3年度活動結果報告（3-7）

提出日	令和 4年 6月 30日	活動区分 ※事務局で記入	(3)(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 熊本県農業研究センター草地畜産研究所 担当者名： 小柳 藍夏		
事業・活動名	野草発酵 TMR を活用した野草地放牧技術の開発		
実施場所	熊本県農業研究センター草地畜産研究所		
実施日・期間	令和 3年 4月 1日～ 令和 4年 3月 31日		
実施内容	○野草発酵 TMR を活用した野草地放牧技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・供試牛 4 頭 ・令和3年1月から肥育を開始し（開始時月齢：10.1 か月）、令和4年4月に出荷した（出荷月齢：24.8 か月） ・全期間所内野草地で放牧しながら、以下の飼料を給与した 夏期（5～10月）：配合飼料 冬期（11～4月）：野草発酵 TMR ・毎月肥育を調査し、出荷後には肉質を調査した 		
実施体制 (連携・協力)	協力機関：熊本県農業研究センター畜産研究所（試験設計、飼料設計等） 株式会社ネットワーク大津（発酵 TMR 製造）		
実施の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>冬期の TMR 給与</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>出荷牛</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>枝肉格付 (A-2)</p> </div> </div>		
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・肥育終了時体重：757.5 kg、TMR 摂取量：14.5 kg/日・頭、 ・飼料自給率：53.2 %、総野草摂取量（TMR 中）：約 3 t、 ・利用野草地（実質）：2.6 ha、利用野草地（延べ）：4.4 ha、 ・枝肉重量：456.8 kg、BMS No.：2.8 <課題> <ul style="list-style-type: none"> ・前期野草 TMR は芯の残飼が多かったため、もう少し切断長を短くする。 		
実施者の感想	・野草地放牧をしながら冬期（11～4月）に野草発酵 TMR を給与すると舎飼いより養分要求量が多くなるが、給与量を調節することにより目標体重である 750 kg を達成したため、放牧でも十分な肥育が見込めると考えている。		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

令和4年度活動結果報告 3-4

提出日	令和 5 年 6 月 20 日	活動区分 ※事務局で記入	(3)(1)
実施主体名 (提出者)	団体・法人/個人名： 熊本県農業研究センター 草地畜産研究所 担当者名： 小柳 藍夏		
事業・活動名	野草発酵 TMR を活用した野草地放牧技術の開発、肉質特性の解明		
実施場所	熊本県農業研究センター 草地畜産研究所		
実施日・期間	令和4年4月1日 ~ 令和5年3月31日		
実施内容	<p>○野草発酵 TMR を活用した野草地放牧技術の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> 供試牛8頭 冬開始区(4頭)：R3.1~R4.4、約10か月齢~25か月齢 春開始区(4頭)：R3.4~R4.8、約9か月齢~24か月齢 全期間所内野草地で放牧しながら、以下の飼料を給与した 夏期(5~10月)：配合飼料 冬期(11~4月)：野草発酵 TMR 毎月発育を調査し、出荷後には肉質を調査した 		
実施体制(連携・協力)	協力機関：熊本県農業研究センター畜産研究所(試験設計、飼料設計等) 株式会社ネットワーク大津(発酵 TMR 製造)		
実施の様子	 <p>冬期の TMR 給与 夏期の野草地 春開始区 (BMS. No3)</p>		
活動目標の達成具合、その他の成果や課題	<ul style="list-style-type: none"> 野草地放牧は冬と春のどちらに開始しても発育に影響はなかった (枝肉重量：冬開始区 457kg、春開始区 452kg) BFS. No は春開始区で有意に高くなったが、枝肉等級は全頭 A-2 であった 枝肉単価平均：冬開始区 1,913 円、春開始区 1,225 円 飼料費(1頭あたり)：約 29 万円、自給率は 52.5% 改良草地で配合飼料を給与した牛と比較し、野草地放牧した牛の脂肪融点が有意に低くなった(脂肪融点：改良草地 32.4℃、野草地放牧 27.4℃) 		
実施者の感想	<p>野草地放牧肥育は、夏期に配合飼料を給与し冬期に野草発酵 TMR を給与することで十分な発育が見込めると考えられる。肉質については野草を摂取することで牛肉の脂の口どけが良くなることが示唆された。また放牧することにより、ぼろ出し作業や野草地の管理の省力化、飼料自給率の向上・飼料費の削減になる。</p>		
ロゴマーク 使用状況	1. 使用あり ⇒ ②. 使用なし	(ありの場合：使用方法・使用対象・使用時期など)	

